

<h1>第311回月例会議事録</h1>	安全技術応用研究会	
	承認	確認
	企画運営委員長 増田	企画運営委員

- ◎ 日時 2019年3月29日（金）10：00～16：45
- ◎ 場所 きゅりあん 6階 大会議室
- ◎ 出席者 23名（法人会員：14名 個人会員：8名 オブザーバ：1名）

1. 報告事項

1) 自己紹介・トピックス紹介

① 企画運営委員挨拶

本日も皆さまから活発なご意見をいただき進めたく考えます。

② 自己紹介・トピックス

- ・安全技術普及会で「既存機械（汎用旋盤）をどのように安全に使うか」リスクアセスメント勉強会を行った結果、今まで見逃していたハイリスクが見つかり、すごい反響あった。
- ・薄物の板金加工に関する安全上の情報が欲しい。
- ・韓国の電気用品安全のKCマーク運用実施要領が昨年10月に改正された。
(1000Wのアンプは対象となる)

③ その他

- ・「機械安全入門講座」の特別講習会開催の案内 2019年7月3日(水)、7月4日(木)
詳細は添付資料参照

2) 定例報告

① 第310回月例会・第35回企画運営委員会の概要。

- ・ 詳細は「第309回月例会議事録」参照。

② 第35回関西月例会・関西委員会活動報告概要。

- ・ 詳細は「第34回関西月例会議事録」参照。

3) 月例会アンケート結果/第309月例会グループ討議結果

企画運営委員会

- ・今後もテーマで取り上げた内容をさらに深掘して、月例会のテーマアップなどに反映していく。

2. 「リスクアセスメント委員会報告」

11:15-11:55 リスクアセスメント委員会

- ・委員会の進捗状況と手引書ドラフト版の概要説明。手引書については5月完成予定。

(添付資料 2-1 第9回RA委員会報告 参照)

3. テーマ「最新規格動向」

機械安全に係る規格等の最新動向について解説

13:15-14:15 テュフ ラインランド ジャパン株式会社

杉田 吉広 氏

「概要」ISO/IECの最新動向の説明

(添付資料 3-1 安全規格動向 参照)

【質疑応答】

Q : 取説の規格はいつ出るのか

A : DISは終わっているので6月中ころにはFDIS発行予定。

4. 自社の電気受電設備の仕様のアンケートについて

14:15-14:45 テュフ ラインランド ジャパン株式会社

杉田 吉広 氏

下記の内容について会員様にアンケートを依頼しますので、ご協力をお願いいたします。

1. 機械の電気装置に対する要求
2. 接地方法
3. 輸入機械の使用について
4. 地絡保護について

【質疑応答】

Q : アンケート内にあるIECとJISの違いは？

A : JIS化されるタイミングの違いがあるので、どの規格を使用しているか記入する。

詳細は添付アンケートを参照

5. 討議テーマ「定常作業と非定常作業について」

13:30～15:30 企画運営委員会

【概要】過去の月例会で討議した経緯、外部研究レポートを紹介。

—会員からの意見—

- ・ユーザー会員では、作業の区分けに「定常作業」、「非定常作業」の用語を使っている。
- ・メーカー会員では、この用語を使う企業が少ない。

作業区分を明確にしている例では

- ・作業標準や作業者の資格要件により規定できる作業内容を「定常作業」、規定できない作業を「非定常作業」と呼んでいる例が複数あった。
- ・規定するための基準は、企業独自の分類基準を作っていた。
- ・作業形態、例えば、保守作業、点検作業、修理作業、などの差業種別で区分する例も報告されたが、この分類を採用している企業は少なかった。

参加会員の報告・質疑の結果、次の内容に取りまとめた。

1. 災害防止やリスクアセスメントの対象とするか否か、の区分けに使っている例は少なかった。
2. 作業内容を管理する上で、共通化、標準化した管理ルール(管理手段が標準化できる：作業手順、作業標準として文書化できる。業務を管理する体制が既存の業務管理体制で実施できる、など)に基づいている作業を「非定常作業」と呼び、都度、管理体制を作って管理する作業を「非定常作業」と呼んでいる。

安全管理やリスクアセスメントを実施する上で、対象外とするための口実に使われている懸念があったが、作業を管理する上での分類、区分けを定義している事例が複数報告され、口実として使われている例はなかった。

月例会説明資料

資料番号	資料名
2-1	第9回RA委員会報告
3-1	* 安全規格動向 「機械安全・機能安全規格の最新動向」 * アンケート: 質問 機械の電気装置に対する要求、接地系統